

# CELF 拡張オプション for Dropbox 使用方法マニュアル

Ver 1.0

## 改訂履歴

版	日付	改訂内容
1.0	2022/11/14	新規作成

## 目次

● はじめに .....	2
○ 本資料の概要 .....	2
○ 前提環境 .....	2
○ 留意事項 .....	2
● 事前準備 .....	2
○ CELF に拡張オプションを登録する .....	2
● 拡張オプションの使用方法 .....	3
○ 「Dropbox 設定」画面 .....	3
○ 「Dropbox の認証認可をする」アクション .....	4
○ 「WebAPI が認証・認可されているか確認する」アクション .....	4
○ 「アクションの実行を待つ」アクション .....	4
○ 「Dropbox を操作する」アクション .....	5
○ 「Dropbox の操作画面」 .....	5
○ アクション実行時の挙動について .....	7

## ● はじめに

### ○ 本資料の概要

本マニュアルは、Dropbox と CELF の間でデータ連携を行う拡張オプション「CELF 拡張オプション for Dropbox」に新たに追加された機能の使用方法をまとめたものです。

使用するために必要となる拡張オプションの設定内容、および提供される各アクションの使い方について説明します。

### ○ 前提環境

拡張オプションを使用する全ての PC において、CELF クライアントのインストールが必要になります。

- ・ CELF : バージョン 3.4.1 以上

CELF クライアントを利用する PC から、Dropbox が提供する WebAPI（以下、Dropbox WebAPI）に接続できる状態である必要があります。

### ○ 留意事項

当拡張オプションを利用すると、Dropbox WebAPI に接続し、Dropbox 上のデータを参照、更新することができますが、当拡張オプションを利用してのデータ操作は、利用者の責任において行ってください。

当社では、当拡張オプションの利用により生じたいかなる損害（直接損害、間接損害、付随的損害、結果的損害、特別損害を含む全て）についても、一切責任を負う事はできません。

## ● 事前準備

### ○ CELF に拡張オプションを登録する

以下のヘルプページを参考に、CELF に当拡張オプションを登録します。

[https://cloud.celf.jp/celf-help/ja/texts/settings/register\\_external\\_option/register\\_external\\_option.html](https://cloud.celf.jp/celf-help/ja/texts/settings/register_external_option/register_external_option.html)

※当拡張オプションは、拡張オプションライセンスは不要ですので、「拡張オプションを登録する」の操作のみ実施してください。

## ● 拡張オプションの使用方法

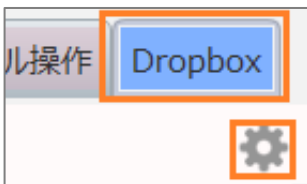
この拡張オプションで提供される各アクションにより、Dropbox WebAPI の呼び出しを通して Dropbox 内のファイル取得・更新などを CELF アプリから行うことができます。

ここでは、その使用方法について説明します。

### ○「Dropbox 設定」画面

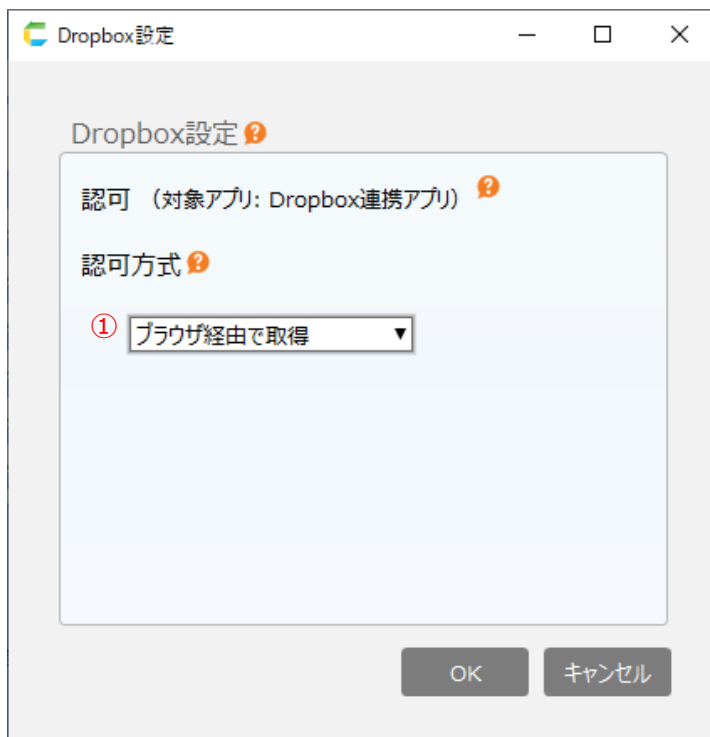
「Dropbox」タブに新たに追加されたアクション(本資料で説明するアクション)を使用するためには、事前に設定を行う必要があります。

設定画面を開くには、「Dropbox」タブを選択し、歯車アイコンをクリックします。



開いた設定画面で、Dropbox WebAPI に接続するための各種設定を行います。

アプリ管理の設定は全アプリ共通、認証情報の設定はアプリ単位です。(シートごとに設定する必要はありません)



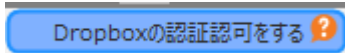
#### ① 認可方式

Dropbox WebAPI に接続する際の認可方式を指定します。

- ・ブラウザ経由で取得：Web ブラウザで表示される Dropbox のログイン画面を通して認可を取得します。
- ・アクセストークンを指定：事前に生成したアクセストークンを入力します。主に開発時の確認用です。

## ○「Dropbox の認証認可をする」アクション

Dropbox WebAPI の呼び出しに必要な認可情報を取得するアクションです。



実行時には、「Dropbox 設定」で指定した認可方式に応じて動作します。

また、認可情報の取得は、WebAPI を呼び出す「Dropbox を操作する」アクションなどの実行より前に完了している必要があります。

これらのアクションは、上記の認可取得操作の完了を待たない点に注意してください。

ひとつのアクションセット内で

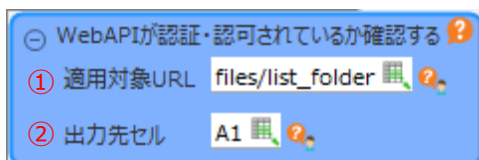
「Dropbox の認証認可をする」アクション ⇒ 「Dropbox を操作する」アクション

の順で並べて作ると、実行時には認可情報取得がない状態で WebAPI が呼び出されてエラーとなります。

それぞれが別のタイミングで実行されるようにアプリを作成してください。

## ○「WebAPI が認証・認可されているか確認する」アクション

指定の「適用対象 URL」に適用される認証・認可情報があるかどうかを確認するアクションです。



### ① 適用対象 URL

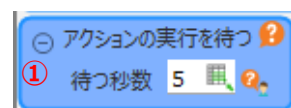
認証・認可情報の存在をチェックする URL を指定します

### ② 出力先セル

認証情報の結果を出力（true または false）するセルを指定します。

## ○「アクションの実行を待つ」アクション

アクションの実行を一時的に待機するアクションです。



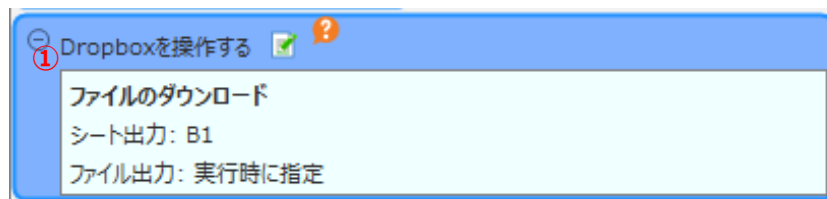
### ① 待つ秒数

アクションの待機時間を指定します。

## ○「Dropbox を操作する」アクション

Dropbox の各種操作を実行するアクションです。

事前に「Dropbox の認証認可をする」アクションを実行している必要があります。



### ①操作内容の選択

Dropbox の操作を指定します。

操作の設定方法については、下記「Dropbox の操作画面」をご参照ください。

## ○「Dropbox の操作画面」

Dropbox の操作を設定する画面です。

ここでは、「ファイルのダウンロード」の操作をもとに処理内容指定、および処理結果についてご説明します。



### ①処理一覧

実行できる処理がカテゴリ別で確認できます。

実行したい処理を選択すると、右側のその処理内容が表示されます。

## ・ 処理内容指定

### ②処理内容指定

処理に応じた設定項目が表示されますので、必要に応じて入力してください。

ただし、「\*」の印の項目は入力が必要です。

#### ※1 日付を指定する入力フィールドのフォーマットについて

リクエストパラメータには、日付を入力するフィールドがあります（例：ファイルリクエスト生成の締め切り日時）。

その場合のフォーマットは、2022-12-12 もしくは 2022-12-22 12:00 で指定してください。

#### ※2 行範囲、列範囲を指定する入力フィールドについて

リクエストパラメータには、行範囲、列範囲を入力するフィールドがあります（例：ファイルの検索の対象拡張子）。

これは、配列に相当するもので、行：1:10, 列：A と入れると、A1:A10 の値をリクエストの値として扱います。

（なお、空欄セルを指定すると空白で送るので、値が空欄のセルは除外する必要があります）

## ・ 処理結果

### ③ファイルの保存先指定 ※処理結果にファイルがある場合のみ

ファイルの保存先を指定します。

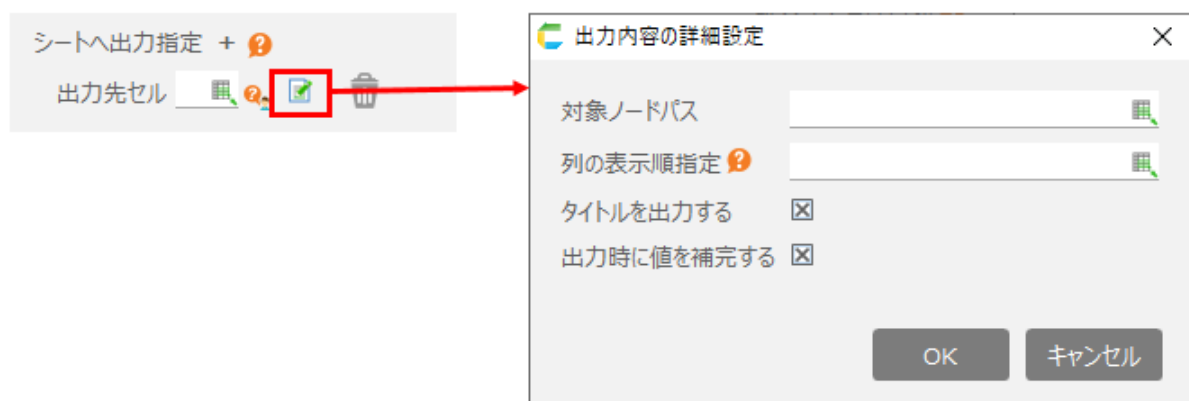
指定方法は、実行時にポップアップ画面で選択する方法と、指定パスで選択する方法の 2 通りです。

### ④シートへ出力指定

処理結果の出力先を指定します。出力先の追加は「+」ボタンで追加します。



また、設定アイコンをクリックすることで、出力内容の指定が可能です。



## ・ 対象ノードパス

対象ノードパスは、レスポンスボディの一部の結果を取得したい場合に指定します。

対象ノードパスの例)

レスポンスボディが以下の場合、「status」または「operationID」を指定することで、対象の結果のみを取得できます。

```
{
  "status": "001",
  "operationID": "ID001"
}
```

- 列の表示順指定  
列の表示順指定は、出力項目を並べ替えたい場合に指定します。  
指定方法は、列タイトルをカンマ区切りで指定します。
- タイトルを出力する  
出力先のセルにヘッダータイトルを付加します。
- 出力時に値を補完する  
オブジェクト構造から一覧形式に変換する際に、オブジェクト構造の値を補完します。

## ○ アクション実行時の挙動について

- WebAPI の結果  
「Dropbox を操作する」アクションの実行結果は出力されたレスポンスでご確認ください。
- アクションセット実行時のエラー  
「Dropbox を操作する」アクションでエラーとなった場合、エラー詳細からエラー内容が確認できます。  
エラー内容をもとに原因をご確認ください。

